

第 6 8 回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1997年10月21日（火）10：30～11：40

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員
日本原子力研究所 佐竹理事
放射線医学総合研究所 辻井治療・診断部長
（事務局等）伊藤原子力室長
池本専門委員
国際協力・保障措置課 花木
坪井核融合開発室長
原子力局企画官（核融合担当） 柴田
研究技術課 大橋
放射線医学総合研究所 秋葉
原子力調査室 松澤、新井、宇賀地

4. 議 題

- （1）第 9 5 回 N E A 運営委員会の開催について
- （2）重粒子線がん治療臨床試行の状況について
- （3）第 7 回 I T E R 計画懇談会の開催結果について
- （4）その他

5. 配布資料

- 資料 1 第 6 7 回原子力委員会臨時会議議事録（案）
- 資料 2 第 9 5 回 N E A 運営委員会出席報告
- 資料 3 重粒子線がん治療臨床試行の状況について
- 資料 4 第 7 回 I T E R 計画懇談会の結果について

6. 審議事項

- （1）第 9 5 回 N E A 運営委員会の開催について

1997年10月9日、10日にパリで開催された標記の件について、日本原子力研究所 佐竹理事より資料 2 に基づき、議事概要、1998年度予算、高級諮問委員会等について報告があった。

- （2）重粒子線がん治療臨床試行の状況について

標記の件について、放射線医学総合研究所 辻井治療・診断部長より資料 3 に基づき、全般的な状況、重粒子線がん治療に対する評価、今後の方針等について報告があった。

- （3）第 7 回 I T E R 計画懇談会の開催結果について

標記の件について、事務局より資料 4 に基づき、会議の概要、I T E R 計画懇談会における議論とまとめ（案）等について報告があった。

これに対し、委員より、

- ・ I T E R のメリットについては、日本にとってメリットがあるという議論だけでなく、日本に誘致することが他国や I T E R 計画全体にどのようなメリットがあるかも検討すべき
- ・ I T E R の次の計画がいつになるのか。30年では技術の継承が困難。広い観点からのメリット、デメリットの議論が重要

- ・ 広範な科学技術の中での位置づけ及び原子力の中での位置づけの両方の立場から議論することが必要
- ・ 中間取りまとめの中で、中長期的テーマにどこまで踏み込むべきかは要検討
- ・ I T E Rを幅広い有識者の懇談会で検討しているのは日本だけ。外国も注目している
- ・ 懇談会の中間報告のあとの取扱いを考える必要がある

等の意見があった。

(4) 議事録の確認

事務局作成の資料第67回原子力委員会臨時会議議事録(案)が一部修正の上、了承された。